

CS こひつじ科礼拝式次第

2022年9月18日 午前9時30分

2022年度年間テーマ：「イエス様の祈り『主の祈り』によって、祈ることを身につけよう」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」
ローマの信徒への手紙 8章28節

40、かみよ このひ（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ 出エジプト記3章9～14節

見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼らを圧迫する有様を見た。今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」

モーセは神に言った。「わたしは何者でしょう。どうして、ファラオのもとに行き、しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」

神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」

モーセは神に尋ねた。「わたしは、今、イスラエルの人々のところへ参ります。彼らに、『あなたたちの先祖の神が、わたしをここに遣わされたのです』と言えば、彼らは、『その名は一体何か』と問うにちがいません。彼らに何と答えるべきでしょうか。」

神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」

[おはなしとおいのり 「神さまの愛は変わらない」](#) [杉山昌樹牧師](#)

（上のリンクをクリックし再生ボタンをクリックすると音声の流れます。もし途中で止まるようでしたらファイルをダウンロードしてください）

皆さん、お元気ですか？杉山です。今日は、出エジプト記の3章です。モーセさんのお話の続きです。先週は、かわいいあかちゃんだったモーセさんが、国の決まりで捨てられそうになった時、エジプトの王女の養子になって守られたというお話でした。その後、立派な若者となったモーセさんは、エジプトでまるで王子のような生活をしていましたが、ある時、事件を起こしてエジプトに居られなくなってしまいます。そしてミディアンというところに逃げて、そこで結婚をして、羊飼いとして暮らしていました。それからかなりの年月が過ぎモーセさんも年を取りました。今日はそんな穏やかな暮らしをしていたモーセさんの前に神様が現れる、というところですよ。まずは聖書を読んでみましょう。

（けさの聖書箇所を読みましょう）

ある日のこと、羊飼いの仕事をしていたモーセさんはいつものように、羊たちを連れて野原に出かけて

いきました。ところがよく見ますと、道端にある背の低い柴の木が、ずっと燃え続けているように見えました。これは何だろう、と思って近寄っていきますと、突然声がしました。「モーセ、モーセ」これは神様の声でした。モーセさんが「はい」と答えると、神様はご自身のことを「わたしはあなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神だ」と言われました。モーセさんは怖くなって顔を隠してしまいました。けれども、神様はさらにモーセさんに話しかけます。「わたしは、エジプトで、イスラエルの人たちが、奴隷になって苦しめられ、私に助けを求めている声を聞いた」、「そこで、イスラエルの人たちをとって良い土地に連れていくことに決めた」、「エジプトの人たちがイスラエルの人たちをいじめているから助けるのだ」、「そこでモーセよ、お前はエジプトに行って私の代わりにイスラエルの人たちを助け出すのだ」。

これを聞いたモーセさんはびっくりしてしまっただけで神さまに言いました。「私がエジプトに戻るのですか、それは怖いことです。そもそも、私はそんなすごいことをするような人間ではありません」。すると神様は言います。「私がいつもお前と一緒に居るようにするから大丈夫だ」。それでも、モーセさんは不安で仕方ありませんでした。なぜなら、モーセさんは、赤ちゃんの時に別れてしまっただけで以来、ほとんどイスラエルの人たちを知らなかったからです。こんな自分が、のこのこ出かけて行っても、イスラエルの人たちは自分なんかきつと相手にしてくれない、誰も言うことなんか聞いてくれない、と思ったのでした。それで、モーセさんは神様にお願いをしました。「きつと、イスラエルの人たちは、わたしが『神様から遣わされてきました』と言ったら、『本当か、その神様の名前は何かという』と言って疑うでしょう。そこで、あなたのお名前を教えてください」と言いました。すると神様はご自分の名前を教えてくださいました。「わたしはある、わたしはあるというものだ」。なぜならそのような名前ですね。でも、これには深い意味があります。それは神様は、いつでも人間と一緒にあり続ける、昔から、それこそ、アブラハムさん、イサクさん、ヤコブさんという人たちと一緒に居たし、その後も、イスラエルの人たちをずっと見守っていたし、これからもずっと一緒に居続ける、そういう意味です。この神様は、姿は見えませんが、今日も、僕たち、私たちと一緒にいて見守っていてくださいます。神様は、ずっと一緒に居て下さる神さまです。この神様に何でもお祈りして相談してみましよう。

お祈り

父なる神さま。あなたは霊ですから、姿を目で見ることができません。でも、聖書のお言葉によって、また聖霊なる神さまのお働きによって、私たちの心に語り掛けてくださいます。そうしていつでも、僕たち、私たちを見守って、その時に必要な助けを与えてくださいます。いつでもお祈りをする時、神様が聞いてくださることを信じます。どうぞ、これからも僕たち、私たちを見守ってください。そして、これからも、神様と一緒に生きていくことができるようにしてください。主イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂 2 階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

55、愛・あい・アイ（こどもさんびかをお用ください）